

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年7月11日 NO.30



モンタ博士「花ちゃん・オー君！この写真（しゃしん）見て、なにかわかる？」

オー君 「な、な、何だ？こりゃ？」

花ちゃん 「私も初めて見るわ。何でしょう？形（かたち）は細長くて・・・。」

モンタ博士「これは、みんながよく食べているものだよ。この前もみんなで食べたよ。
みそをつけて食べたじゃないか。」

花ちゃん 「え！みそをつけて食べた？あ！ひょっとして・・・。」

オー君 「あ！おいらわかった。キュウリのおばけだ。」

モンタ博士「ピンポンその通り。キュウリだね。大きくなりすぎて、ヘチマみたいだね。

この写真は、何年か前の9月ころにとった写真なんだよ。」

オー君 「へえー。そうなんですか。ところで、モンタ博士、ふつうのキュウリとちょっとちがう感じがしますね。」

花ちゃん 「そうね。いつもおうちで食べているキュウリは、もっと緑色をしているわ。
このキュウリは、何だか黄色っぽいですね。」

モンタ博士「そのだね。キュウリは、ほんとうは、
『キュウリ』ではなく、『キウリ』。
つまり『黄色いウリ』ということな
んだ。みんなが食べるキュウリは、
まだ熟（じゅく）していないウリ
なんだよ。」



オー君 「そうか、キウリ、キウリ、言っていると、キュウリと読み方になっちゃうね。」
モンタ博士「『十本』はじゅっぽんではなく、正しくは、『じっぽん』というのさ。それと
同じさ。十は『じゅう』ではなく、『じふ』と発音していたんだ。だから
『じっぽん』なのさ。『じふ』は発音しにくいので、そのうち『じゅう』と発
音するようになったけど、『十本』を『じっぽん』とする読み方だけが残った
と、ある本に書いてあったよ。」

オー君 「ふーん。何だかむずかしいお話になったな。ともかく、キュウリは、もとも
とは、黄色いウリということなんですね。でも、ちょっと待って！なぜ、黄
色いウリを食べないで、緑色のキュウリを食べるようになったの。」

モンタ博士「むかしはね、この黄色いウリを食べていたのさ。ところが、メロンの仲間の
マクワウリやシロウリなど、キュウリよりもうまいウリができてきたんだ。
そこで、熟（じゅく）していないウリを食べたら、みずみずしくて、おいし
いということになったさの。それが、今のキュウリの始まりなのさ。」

おちこぼれのキュウリのつぶやきより

俺様は、おちこぼれのキュウリだ。曲がりくねってしまって、すんなりとスマートでもないし、イケメンキュウリとは言えない。ところがどっこい、味はそんなに悪くないのさ。根性だって曲がってはいない。俺様を見て、見てくれが悪いとか、箱詰めしづらいとか、そんなに落ちこぼれにしないでほしいね。最近じゃ、曲がったキュウリを作らないために、オモリをつけたり、丸い筒に入れるらしいからね。でもよく考えてほしい。キュウリだって生き物だ。同じ環境にいても同じものができないというのが生き物の世界の面白さだし、すばらしさなんだ。そんじょそこらの工業製品のように、同じものを求めないでほしいね。

収穫されたキュウリの大きさや形、曲がり具合で等級が決められ、外見だけで選り分けてほしくないね。最近の世の中は偏差値とか学歴とか、それに統一された評価基準で判断される傾向があり、選別好きな世の中になっちゃったね。人間様の子どもたちにオモリをつけたり、型にはめたりして、個性というものが重要視されなくなっちゃった世の中なんて、俺様はあまり好きじゃないねー。